

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム よしの

日付 平成19年3月31日
特定非営利活動法人
ライフサポート

評価機関

評価調査員 在宅介護経験14年
評価調査員 ケアセンター介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

Ⅰ 運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か | | |
| | <p>それぞれの利用者の状態に合わせて生活支援、生活介助をしようとしている。食事の進まない人への支援、排泄誘導、健康管理、服薬の支援などをキチンとしようとしている。また、利用者の残っている能力を生活の中で生かそうとしている。開設1年目の取り組みの中で、着実にホーム運営の基礎作りが進んできているように感じられる。</p> <p>急性期の病気で入院をした利用者が、徘徊癖を理由に病院で拘束を受け、1ヵ月後に足腰が弱って車椅子依存になり言葉も出なくなってきた。職員達は時間を決めてトイレ誘導し、歩行サポートのリハビリ等で歩けるようにした。笑顔も戻り、少し言葉も出るようになり、家族がビックリしているという感動的な取り組みがある。</p> <p>管理者は「利用者は“家に帰りたい”という思いが本音だと思う。それに勝てるかが課題です」と謙虚に語る。地元出身の職員達の真面目な支援に支えられ、利用者同士が助け合いや仲間意識が確実に育っていて、家を超える存在のホームが生まれつつあると感じた。</p> <p>これからは理念の具体化を図り、年度の初めなどにユニット毎に、例えば「口腔ケアの確立に取り組む」「ホーム便り」を毎月発行する等の具体的なテーマ設定を職員全体で練り上げて取り組んで欲しい。</p> | | |

生活空間づくり

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| 5 | 場所間違い等の防止策 | | |
| 記述項目 | 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か | | |
| | <p>個室が独自の設計の為、夫々の利用者が自室で落ちつき易い雰囲気になっていることから、かなりの時間を自室で過ごしている人が多い。夫々に個室にテレビを持ち込んでいる事も、そうした生活時間のパターンを作っているのかも知れない。居間に設置されている6畳の畳みゾーンでは、一休みする人が使ったり、洗濯物の折りたたみ場に使われたりしている。</p> <p>施設無しで自由に外に出て、散歩や畑仕事を楽しめるので、ホーム全体の印象は閉塞感がない。利用者は好きな時間を夫々に自由に落ち着いて過ごしているように感じられる。</p> <p>トイレはセンサーで自動的に点灯・消灯され、便器は男性用のものも併設されていた。又、浴室は泡風呂の装置がある。木目を生かした建物と近代的な装置を上手く調和させたこだわりの創りだ。安全に快適に過ごして欲しいとの思いが伝わってくる。</p> | | |

ケアサービス

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人でできることへの配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |

外部評価の結果

概評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

兵庫県との県境に近い山間の平地にゆったりと配置されている。2ユニットのゆとりある設計のホーム。木の香の匂う玄関間の大石の飾り台の上に青杉の活花が目飛び込んでくる。105歳の花のお師匠さんの利用者の飾りつけとか。夫々の個室は、4畳位のフローリングゾーンと3畳の畳ゾーンで構成されており、個室利用のアクセントを作りやすくしているようだ。余裕のある共通の居間や廊下、玄関ロビーのコーナーにソファや植栽・活花などが配置され、一寸した個人的な居場所が工夫されている。庭には菜園もあり、すぐ近くには郵便局や、小学校もある。開設1年余りであるが、そうした条件を生かして利用者の自主的意向や残存能力を尊重し、野菜造りにいそむ利用者や食事作りの手伝い、近くの住民や小学生の生徒さんとの交流が自然になされている事が伺える。

急性期の病院で入院して拘束され、1ヶ月後退院した時に車椅子生活になり言葉も出なくなった利用者を、懸命にリハビリして歩かせるようにした感動的な取り組みが始まっている。また、驚いた事は、利用者の友人であり、もう一人の利用者の縁戚にもあたるといふ住民がお菓子の土産を挙げて訪問され、お昼過ぎから2時過ぎまで2時間ばかり部屋で3人お喋りを楽しんでいた。特別の見舞いと言うのではなく、しばしばこうしてお茶飲み交流をしているという。また、活発な利用者は近所の住民との行き来を恒常的に行い、その余禄で野菜などを頂くそうだ。また、小学校生徒の作る新聞が各ユニットに掲出されていた。ケア面では、週3回の入浴を励行するよう心掛けており、希望者は毎日でも利用できる。地域に溶け込もうとしているホームの姿が見えてきている。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

開設1年の活動の中で、ホーム運営の基礎固めの段階にあるといえよう。おかれた条件の中で、利用者や職員の自主性を尊重して、のびのびとした生活振りがうかがえる。この段階で、今一度グループホームのあり方を職員全体で話し合っ、理念を確認すると共に、新年度に臨む具体的なユニットの活動スローガンを掲げて欲しい。

アセスメント段階での、利用者の生涯履歴を今少し綿密にヒヤリングして、利用者個々の全体像を的確に把握していくことが大切だと思います。

利用者の自発的な多様な活動の素晴らしさを、職員全体で砂評価してホーム便りを作ったりして利用者の姿を家族に知らせて欲しい。

お昼の食後のうがい、口濯ぎ等の口腔ケアを励行して頂きたい。

Ⅲ ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|------------------------------------|-------|-----|
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にしたい整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物物の支援 | | |
| 23 | 痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |

記述項目 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か

個々の利用者への関わり方や声かけは夫々の個性に合わせた配慮をしている。そして、残っている生活能力を出来るだけ活かした日々の生活が送れるように支援している。全体として、伸び伸びとゆったりとした雰囲気漂っている。そして、職員から利用者の人生歴や生活態度に対して尊敬を持った言葉が一度ならず聞かされた事は、ホームの暖かさを感じた。また、「だんだん機能低下する利用者も、何もせずに見ていたくない」と管理者と職員は話し合い、朝夕のリハビリ体操に加えて、オーナーに相談して理学療法士に来てもらう事になっている。土いじりの農作業、テーブル拭き、食器洗い、自分の服の洗濯など出来る事をしている。生活リハビリが根付きつつある印象だ。

ただ、見方によっては一人ひとりの個性がはつきりしている生活者といった傾向が強く、ユニット全体の中で和やかなコミュニケーションを交わす場面がやや薄い印象で、そうした場面を作っておけることも試みて欲しい。

介護計画を作る上で利用者の各人の生活歴のヒヤリングを積極的に行って、アセスメントを綿密にするよう研究して欲しい。そして、日頃のケアの中で気付いた事柄を、次回の介護計画に反映できるように生の声や、職員の気付いた所感などを記録に残してもらいたい。

Ⅳ 運営体制

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|-------------------|-------|-----|
| 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| 32 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| 33 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| 34 | 地域との連携と交流促進 | | |
| 35 | ホーム機能の地域への還元 | | |

記述項目 サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。

ハード面のゆとり感や整備の良さに加えて、利用者にも重度の人がまだ少ない事情もあり、開設以来の一年がスムーズにスタートが切れている印象が強い。夫々の利用者の尊厳を尊重して、生活リハビリを重視したこの1年の運営に自信を持って欲しいものである。

近隣にある小学校の生徒と先生が来て、劇や銭太鼓の発表会をしてくれたりしている。こんやくを厨房で3時間かけて作った利用者は、近所の方々に気軽に配りに行くなどして、近隣の家に行き来して、自然に地元溶け込みつつある事も心強い。散歩中に近所の方が声をかけてくれるのも、こうした日頃の利用者の生活振りが反映しているに違いない。ホームの夏祭りに300人も集まったことにもその事は示されている。開放的で居心地の良いホームが、地域の家と認められつつあると確信した。これを財産として、職員の研修等や近隣ホームとの交流等を通じて、重度化していく段階の認知症ケアへの対応等職員全体の力を高め、地域になくはならないホームに成長して欲しい。